



アフリカ・タンザニアで、ITの可能性を追求!!

青年海外協力隊 OB 福井市出身

原 秀一さんにインタビュー!!



サバサバ2015 JAPANバピリオンにて



任地ムトラ(タンザニア南東部)にて/ボランティア時代

IT技術は、経済や生活の潤滑油!

Q1 コンピュータ技術の職種で青年海外協力隊員としてタンザニアに行き、2004年に帰国しその11年後に再び現地に行かれ、どのような経緯でビジネスを始めましたか?

原さん：2013年4月、タンザニアにいる隊員時代の知人とのつながりで10年ぶりに任地を旅行しました。訪問して驚いたのが、郊外まで街が拡大し、自動車の増加による朝晩の通勤渋滞が日常である状況。同僚の職場である職業訓練校にも、コンピューターが数多く導入されていました。しかしながら、多くのコンピューターはウイルス感染により使えない状態。これでは、生徒が学習の機会を失い、未来の技術者が育たないと感じたからです。

Q2 2015年3月には“途上国のためのビジネスアイデアコンテスト”で最優秀賞を受賞されましたが、そのアイデアの内容とは?

原さん：壊れたコンピューターを使える状態に変えるUSBを作るアイデアです。僕自身ITエンジニアで、ウイルス感染状態からの復旧作業を行うことは可能ですが、多くのコンピューターを一つ一つ直すのは限界があります。そこで、予めオフィスソフトウェアをUSBに入れておき、いつでも正常に使えるようにしたいと考えました。



OneUSBをタンザニア国際商業見本市にて出展

Q3 タンザニアの商業祭にIT製品を出展するなどビジネス展開を行われていますが、途上国でIT事業をする上で難しいところを教えてください。

原さん：タンザニアでは平均所得が日本と比べると低いため、日本とおなじ感覚ではビジネスを継続することは難しいと感じています。同じ価格で販売しても、売れる数は少なくなるわけで、現地にフィットするカタチを模索しています。ただ昔と違い、スマホ等も低速だけでも使えますので、日本に近い環境での仕事は出来ます。

Q4 ご自身のアイデアがタンザニアの発展に繋がると考えられますか?

原さん：はい、現代においてコンピューターが正常に使える事は、経済や生活の潤滑油だと思います。より広く普及することができたならば、という課題は残っているので、僕自身がそれらを解決できる方向に、もっと行動していきたいと考えています。



金沢大学医学部で学ぶ ミャンマーからの研修員



自身の研究内容を発表する様子

キン・トユザ・アンさん!! 突撃インタビュー!



Q1 金沢大学医学部では、どのような研究をしていますか?

トユザさん：血管分子生理学教室の博士課程で、血管に発生するガンや炎症の治療につながる細胞レベルでの研究をしています。

Q2 同じ研究室には、どこの国の方たちがいいますか?

トユザさん：中国、ベトナム、バングラデシュからの学生、日本人学生もいます。

Q3 一緒に学んでいる日本人から、どのような影響を受けますか?

トユザさん：日本人の学生は朝から夜遅くまで一生懸命に勉強をしています。その姿をみて、自分もより勉強しようと刺激をうけます。

Q4 今研究していることは、将来的にどのように役に立つと思いますか?

トユザさん：研究していることの技術面に関してはもちろんですが、その他にどのように研究するか、進めていくか、という考え方の面も役に立つと思います。また(研究以外で)、違う環境で生きるということに学びがあります。

国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2015

今年度は、中学生の部40,119点(北陸3県1,083点)、高校生の部29,636点(北陸3県608点)の応募がありました。北陸3県では、中学生の部で細田和寛さん(福井県)が見事『優秀賞』を受賞されました。おめでとうございます!

ご応募
ありがとうございました



優秀賞

「守り、繋ぐもの」

細田 和寛 さん
福井市明倫中学校3年

今回、このような賞をいただき、とてもうれしく思います。受賞したエッセイでは、私がインドネシアへ行って体験した、現地の人々との交流についてや、このつながりを守っていききたいという考えについて書きました。受賞させていただいたことで、私は自分の考えに自信を持てたと思います。そしてこの力で、将来たくさんの方の役に立つ活動をしていきたいと思っています。

あなたの国際協力への思いを
エッセイにまとめてみませんか?

毎年発表されるテーマに基づき、ニュースや学校などで学んだことを題材に『感じたこと・考えたこと』をエッセイにまとめてください。上位入賞者への副賞として、開発途上国の海外研修が準備されています。研修先では、JICAプロジェクトの訪問やホームステイ、現地の人たちと交流を行います。

募集時期 6月中旬～9月中旬

北陸3県の受賞者紹介

中学生の部	
独立行政法人国際協力機構 北陸支部長賞	
大前 杏奈さん	富山市立南部中学校2年(富山県)
野本 千紘さん	石川県立金沢錦丘中学校3年(石川県)
奥村 颯太さん	福井市足羽中学校3年(福井県)
佳作	
中野 皓介さん	坂井市立坂井中学校3年(福井県)
高校生の部	
独立行政法人国際協力機構 北陸支部長賞	
端 希子さん	富山県立高岡高等学校2年(富山県)
道原 萌乃さん	石川県立金沢泉丘高等学校3年(石川県)
神門 円樹さん	福井県立美方高等学校3年(福井県)

ここでは一部の受賞者をご紹介します。その他の受賞者・受賞校は、ウェブサイトでご紹介しています。
→<http://www.jica.go.jp/hokuriku/enterprise/kaiatsu/essay/index.html>
受賞作品もご覧いただけます。

来年もご応募お待ちしております!

2/21日

富山から世界へ ワールド・レポート in 富山 を開催しました!

第1部では、青年海外協力隊50周年を記念して制作された映画「クロスロード」上映、その後登場人物のモデルとなった渡辺樹里隊員をお招きし、映画の舞台となったフィリピンでのドジョウの養殖活動、また撮影現場でのエピソードについて紹介していただきました。

第2部では富山県から発信している国際協力について、元青年海外協力隊やJICA事業受託団体や企業からの活動報告がありました。参加者アンケートからは「映画感動しました!」「国際協力に興味をもった」との声が多数あり、国際協力を身近に感じていただけた様子。当日は、約110名の皆さんにお集まりいただき、大変盛況な会となりました。



渡辺樹里隊員とのトークセッション



開会挨拶の様子

2015年12月

2016年2月

「JICAボランティア 留守家族懇談会」を開催しました!

派遣前、派遣中のJICAボランティアの御家族を囲み、JICAがどのような支援をしているのか、また怪我や病気になった際の対応はどうか?などについて説明しました。各県、OB会、支援する会等の関係者団体からの参加も得、沢山の方に支援されている事業ということをご理解いただき、帰国隊員から現地の情報を聞いて、ご家族の方は安心した様子でした。



ボランティアの御家族を囲み記念撮影☆

中小企業海外展開支援事業で5社採択!!

- ◆基礎調査
ジェック経営コンサルタント(富山市/カンボジア)
かね七(富山市/インドネシア)
福井シード(福井市/ミャンマー)
- ◆案件化調査
ジャパン・フラワー・コーポレーション(射水市/ラオス)
- ◆普及・実証事業
アース・コーポレーション(富山市/ペルー)

今後、各社の製品・技術を途上国の課題解決に役立てることを通じ、ODA案件化及びビジネス展開のための調査や実証活動を行います!

1月



江蘇省土壤汚染対策技術支援事業 調査団を派遣!

2012年から石川県が実施団体となり、江蘇省環境保護庁をカウンターパート(相手国協力機関)として、土壤汚染対策を実施するための人材育成を行っています。すでに7名の土壤汚染対策専門家を養成し、土壤汚染調査マニュアルも作成されました。1976年から友好交流のある石川県と江蘇省は、土壤汚染対策の進展を目指して協力を継続しています。

